

2012年1月25日

利用者各位

日本経済新聞社
インデックス事業室

「日経平均ボラティリティー・インデックス」のリアルタイム算出開始について

日経平均ボラティリティー・インデックスについて、昨年2011年9月27日付けの発表資料で、「2012年1月から（日々終値ベースの算出に替えて）リアルタイム算出に移行」することをお伝えしておりましたが、具体的な算出開始日付が確定しましたので、あらためて下記のとおりご案内いたします。

記

1. リアルタイム算出開始日
2012年1月30日（月）
2. 算出時間帯
毎証券営業日の9時から15時15分まで、15秒間隔
（大阪証券取引所の日経平均オプション取引の日中取引時間帯、ただし、プレクロージング中は除く。9時0分15秒算出が日々の始値になります。）
3. その他事項
 - ① リアルタイム算出以降の指数値は、これまでの日次終値ベースの指数値とそのまま接続します。したがって、リアルタイム算出の初日である1月30日の指数値の前日比は、前営業日の1月27日（金）の日次終値ベースの指数値との差となります。
 - ② リアルタイム算出に伴い、算出方法を一部変更します。変更の概要は次ページの「別紙」、詳細は別掲の「リアルタイム算出要領」をご参照ください。

以上

《 別紙 》リアルタイム算出に伴う、算出方法の主な変更点について

リアルタイム算出に伴い、日経平均ボラティリティー・インデックスの算出方法を一部変更します。主な変更点は以下のとおりです。詳細は別掲の『「日経平均ボラティリティー・インデックス」リアルタイム算出要領』をご参照ください。

1. 満期までの期間を秒単位で計測

従来の日次終値ベースの算出では、満期までの期間を「日数単位」で計測していましたが、リアルタイム算出では、取引時間中に減少していく満期までの期間を指数値に反映するように、算出のつど、満期までの期間を「秒単位」で反映するように変更します。

2. 日中の価格の変化に対して、気配値を含む価格採用ルールを導入

従来の日次終値ベースの算出では、本インデックスの算出対象となるオプションおよび先物の「終値（最終約定値）」を採用していましたが、リアルタイム算出では「気配値を含んだ価格採用ルール」を導入します。従来の約定値をベースとした算出との継続性を保ちつつ、気配値も取り込むことで、取引時間中に刻々と変化する価格水準を指数値に反映します。

3. ATMの変化に対して調整値を採用するなどリアルタイム算出の安定化策を導入

リアルタイムでの算出においても、対象となるのが OTM（アウト・オブ・ザ・マネー）のオプションであることは変わりません。ただ OTM の範囲を決定する ATM（アット・ザ・マネー）に先物価格を用いているため、ATM を決定する先物価格が取引時間中に刻々と変化し、それに連れて OTM となる対象オプションも変化します。

したがって、先物価格が特定のオプションの行使価格近辺で小刻みに変動すると、当該行使価格において OTM となるオプションが、コールになったり、プットになったり安定を欠くことになるため、ATM に最も近い行使価格については、OTM オプションの価格ではなく、コールの価格とプットの価格の間となる調整値を採用するように変更します。

加えて、3 つ以上連続した行使価格で有効な価格が取得できない場合、ATM から見て当該行使価格より外側の行使価格のオプションについては、有効な価格があっても本インデックス計算の対象としないことなど、日中の算出値を安定化させるためのルールを組み込んでいます。